

令和5年度学校自己評価システムシート (県立熊谷女子高等学校)

| | |
|--------|---|
| 目指す学校像 | 自主自律の精神と豊かな人格を育み、新しい時代をリードする心身ともに健康な生徒を育成し、生徒の第一志望の進路実現を果たす進学校。 |
|--------|---|

| | |
|------|---|
| 重点目標 | 1 幅広い可能性から一人一人の個性を生かす進路選択を行い、第一志望を最後まであきらめさせないきめ細やかな指導の徹底。 2 「県立高校オンライン連携講座事業」「データサイエンス・AIリテラシーを活用できる高校生育成事業」の取組を活かす、ICTを活用した個別最適な学びの研究と実施。 3 自ら課題を見つけて学習に取り組み、生涯にわたる学びを実現する学びのマネジメント力の育成 |
|------|---|

| | | |
|-----|---|-------------|
| 達成度 | A | ほぼ達成(8割以上) |
| | B | 概ね達成(6割以上) |
| | C | 変化の兆し(4割以上) |
| | D | 不十分(4割未満) |

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

| | | |
|-----|----------|----|
| 出席者 | 学校関係者 | 9名 |
| | 生徒 | 3名 |
| | 事務局(教職員) | 6名 |

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。

※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

| 学校自己評価 | | | | | | | 学校関係者評価 | |
|--------|---|----------------------------------|---|---|--|-----|--|---|
| 年度目標 | | | | | | | 実施日 令和6年2月8日 | |
| 番号 | 現状と課題 | 評価項目 | 具体的方策 | 方策の評価指標 | 評価項目の達成状況 | 達成度 | 次年度への課題と改善策 | 学校関係者からの意見・要望・評価等 |
| 1 | 【現状】 進路と学年が連携し、組織的に指導に当たっている。国公立を含めた難関大学への合格者は前年並みであった。 【課題】 生徒の発達段階に応じた計画的、組織的な進路情報の提供や学習支援に継続的に取り組み、第1志望をあきらめさせない進路指導を進める必要がある | 個性を生かす進路選択と、第一志望をあきらめさせない進路指導の徹底 | ①教員相互の授業見学や、授業研究会等による授業の質的向上 ②大学説明会(地方国立大学説明会含む)・分野別説明会の計画的実施 ③発達段階に応じた計画的・効果的な進路情報の提供 ④補習授業や「オンライン連携講座事業」「駿台サテネット」等、主体的に選択し計画的に学び第1志望の進路を実現させる学習支援 ⑤模擬試験の計画的実施と分析に基づく、的確な進路指導の実施 | ①授業公開や授業見学を行う教員が増えたか。 ②大学説明会・分野別説明会は増加したか。工夫があったか ③進路日より等による情報発信は何回行ったか。 ④補習授業・オンライン連携講座事業への参加生徒は増えたか ⑤第1志望・準第1志望への進学実績は向上したか | ①各学期に「授業見学週間」を実施。参加教員数は例年並み ②大学説明会12回、分野別説明会10回のほか、難関大学説明会、保護者対象説明会(2回)も実施した。 ③進路日より1年16回、2年28回、3年23回、全学年共通13回発行した ④夏季補習3年42講座、1・2年17講座。オンライン連携参加者25名70講座で増加 ⑤進路決定者93名(1月現在)、共通テスト受験者301名。1月現在は例年並み。 | A | ○進路指導部と学年が連携して、発達段階に応じた進路情報の提供と「第1志望をあきらめさせない」指導を実現している。 一方で、国公立や難関私大を目指す力のある生徒がいるにもかかわらず、一歩控えめな進路目標を立てている傾向もみられ、引き続き「高い目標」を持った生徒の育成指導に取り組む必要がある。 | ○推薦入試合格者が着実に伸びており、取組の成果が表れている。大学説明会・進路日より・夏季補習の充実ぶりも素晴らしく、進路担当の先生方だけでなく、個々の先生の力も大きいと考える。 ○生徒に高い「志」を持たせることは大切である。先生方の情熱や学校全体での熱心な取組に感謝する。 ○文系でも、数Ⅲを学ぶ機会を与えてはどうか |
| 2 | 【現状】 全校生徒がiPadを購入。学年・クラス各授業でGoogle classroomを作成し、授業等で活用している。 【課題】 ICT技術を活用した効果的な学習支援、授業の工夫改善を行うと共に、生徒個々のニーズに応じて計画的・主体的に学びに取り組みさせる必要がある。 | ICTを活用した個別最適な学びの実践 | ①「駿台サテネット」を効果的に活用させ個々の学習レベルや生活スタイルに応じた学びを構築 ②全ての授業でオンライン授業を実践し、事情により登校できない生徒への学びを止めない授業を実践 ③ICT技術を積極的に活用した授業を拡大し、わかり易い、魅力的な授業を提供 ④iPadを活用した教材・情報の提供 | ①「駿台サテネット」を効果的に活用できたか。 ②学びを止めないオンライン授業を適切に提供できたか。 ③ICTを活用した授業を展開する教員が増えたか。 ④iPadを学校生活で効果的に活用できたか。 | ①「駿台サテネット」実利用人数は504名。この内1年は308名でほぼ全員利用 ②コロナ・インフルなど長期欠席者にほぼ毎日オンライン授業を実施。 ③ICTを活用した授業は多くの先生が実施し、実施者数は増加した。 ④全ての授業でGoogle classroomを作成。iPadを学習活動に効果的に活用。課題の提示・回収、連絡事項の周知にも活用 | A | ○「駿台サテネット」は授業と組み合わせる学びのマネジメント力の育成に大きく寄与している。しかし、2・3年生の活用状況に課題が残った。 ○ICTを活用した新しい授業の実践が進みつつあるが、まだ大きな伸びしろも残っており効果的な実践を共有する研修等が必要である。 | ○「駿台サテネット」の1年生全員利用は大きな成果だと思う。2・3年が少ないのは塾に通っているからだろうか。もっと利用が増えるといい。 ○オンライン授業が必要に応じて実施され、全授業でクラスルームを活用しており、ICTが効果的なツールとして利用できていることを高く評価する。今後もより一層拡充してほしい。YouTube(無料)も活用するとよい。 |
| 3 | 【現状】 学校行事・部活動等に生徒は主体的・意欲的に取り組んでいる。新学習指導要領に基づいた観点別評価に係る評価内容・評価規準をシラバスに記載し生徒・保護者に公開している。 【課題】 生徒が自ら考え自主的・意欲的に取り組む活動機会を十分に確保する。自らの興味関心に応じた学びをマネジメントできる力を育成する必要がある | 主体的活動の推奨と、学びのマネジメント力の育成 | ①部活動や学校行事、委員会活動等の活性化による、生徒の主体的活動の推進と、リーダーシップの育成。 ②データサイエンス事業等を活用した主体的・探究的な学びの実践 ③関東地区SSH指定女子高校研究協議会に参加し、他校生との交流や、大学と連携した科学分野の最先端の学びを実践 ④多様な国際交流事業の工夫と積極的推進 ⑤観点別評価の研究と実践による学びの改善、授業改善の推進 | ①学校行事や部活動での生徒の満足度はどうか。 ②探究活動に、計画的かつ活発に取り組めたか。 ③大学等と連携した活動はどれくらい行えたか。 ④国際交流事業を実施できたか。 ⑤観点別評価に基づく生徒の学びの改善・授業改善は進んだか。 | ①部活動加入はのべ910名(重複あり)文化祭・体育祭も通常開催でき、多くの生徒が積極的に活動できた。 ②データサイエンスを1年で実施。校内発表・代表発表実施。探究活動発表会に2年が口頭発表1本、ポスター発表3本参加 ③埼大・お茶大・京都市大・日本薬科大等と連携した活動を計画的に実施 ④オンライン姉妹校交流実施。次年度は派遣・受入れを同時に実施する予定。 ⑤評価・授業改善は教科ごとに継続 | A | ○コロナの5類移行もあり、「3ばる」の合言葉通り、授業はもとより、部活動や学校行事にも意欲的に取り組んでいる。 ○高大連携は学習パフォーマンスの向上などの教育効果も期待でき、もっと多くの生徒の参加を促す必要がある。 ○国際交流事業の具体的再開の報告が確認されたが、派遣・受入同時開催に伴い、計画的に準備を進める必要がある。 | ○「3ばる」が生徒の活力になっていることを嬉しく思う。一層充実させてほしい。 ○主体的に取り組むには目的を理解させ、納得させて行動させることが大切これと考えさせる仕掛けが必要である。 ○データサイエンスを1年生で実施し、探究活動や発表が行われていることは、いま求められている力を育てていることがよくわかる。 ○高大連携はとて有意義である。一層の推進を期待する。女子校相互の交流だけでなく、男子校・共学校との交流も、女子の考えではない観点もありよいのではないかと。 |
| 4 | 【現状】 自らを律し、協力的に行動できる生徒が多く、伝統ある進学校として地域からも評価・信頼を得ている 【課題】 生徒に寄り添った支援、指導を進め、地域に信頼される品格ある熊女生として学校生活を送らせる必要がある。また、生き生きと活動する生徒の姿を、中学生や地域に公開し、評価を高め、生徒募集に活かす必要がある。 | 規律ある充実した学校生活の実現と、情報発信による生徒募集の充実 | ①挨拶・身だしなみ・清掃活動等の凡事徹底による品格ある熊女生の育成 ②注意深い「みどり」の実践と教育相談体制の充実による、安心して学べる学校環境作りと、個に応じた生活支援の充実 ③学校HPの更新・充実と、学校の魅力の積極的発信 ④学校説明会・学校見学会の工夫改善と全職員が協力した生徒募集活動の充実 ⑤地域連携やボランティア活動の充実 | ①挨拶運動を何日実施したか。 ②教育相談は何日・何回実施したか。 ③HPのアクセス数は向上したか。 ④1月の進路希望状況は、前年比向上したか。 ⑤ボランティア活動・小中連携、地域連携は何回実施できたか。 | ①学期当初に挨拶運動を実施(各1ヶ月) ②12月末でカウンセリングはのべ75件実施。一方で転退学者数はのべ7名となっている。 ③1日平均約8400アクセス(昨年4700アクセス) ④1学期の学校見学会、放課後説明会、中学生対象授業公開など例年以上の取組実施 ⑤小高の部活動交流(2校)学習ボランティアは、相手校の都合で実施見送り。 | B | ○充実した教育相談体制をとっているが、メンタル面での課題を持つ生徒が多く、転退学者もいることから、多くの職員が生徒を見取る力を高めて支援することが必要がある。 ○生徒募集は、例年以上に取組みを充実させ、HPアクセス数も大幅に増加し教育活動の広報は充実している。しかし、県北部地区の中学卒業生徒数の激減の影響は極めて大きく、生徒募集地域の拡大が必要 | ○生徒のメンタル面での課題は心配である。生徒にはそれぞれ個に応じた支援が必要であり、丁寧なケアをしてほしい。 ○学校見学会・説明会等、例年以上の取組まれており、大変だろうが素晴らしいと思う。小高連携ではお世話になった。 ○広報活動は、大学ではSNSを活用し、学生主体で発信させ、教員もチェックして投稿している。生徒募集には、生徒も活用したSNSの活用を考えてみてはどうか。熊女らしさをブレずに作ってほしい。 ○生徒が来るのを待つだけでなく、広範囲の中学校への出前授業なども考えてはどうか。 |

